

横浜市小学校社会科研究会

5 学年部会

## 研修会記録

第 2 号

令和3年 9月 8日

横浜市小学校教育研究会

会長 後藤 俊哉

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

同 学年部長 田村 拓之

【提案日時】

7月 7日 (水)

提案 板山 涼 先生 (中尾小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 比嘉 将来 先生 (西富岡小)

記録 森下 夏帆 先生 (稲荷台小)

### 1 提案内容 単元名

単元名「 サンゴ礁を守ることでつながる暮らし～SDGs 未来都市 恩納村～」

### 2 提案者より

「自然条件と人々の暮らし」について沖縄県恩納村を取り上げて実践を行った。恩納村は、サンゴ礁が有名で、特にサンゴ礁の保護活動が国からも認められてSDGs 未来都市に選ばれている。中尾小はESD推進校ということもあり、子どもたちにとっては身近に感じることができる材と感じる。サンゴ礁と観光という視点から人々の暮らしに迫っていきたい。

実践では、「単元を見通す学習問題」の重要性と毎時間のふり返しを行うことで見られた変容について提案を行っていく。

### 視点①

#### ○単元を見通す学習問題について

導入時における資料提示が重要である

Before

サンゴの白化

After

きれいになった

サンゴ礁

サンゴ→温かい気候の沖縄県ならではの観光資源

SDGs 未来都市



サンゴ礁を生かした観光に結びつける

「単元を見通す学習問題」は今後の授業の流れを決める大切なもの

本実践では、SDGs 未来都市に引っ張られてしまい、環境の視点が強くなってしまった。

## 視点② 本気の学習問題について

「サンゴ礁保護の取組の意味について」

たくさんの取組をして、サンゴ礁を守っている恩納村の人が実際にサンゴ礁を見たことがないという事実を提示することで、子どもたちが「じゃあ、サンゴ礁を守る取組の意味がない」とずれを感じ、そこから本気の学習問題が生まれた。

毎時間、単元を見通す学習問題を意識していたので、本実践では、1時間ふり返りの時間を取らなくても本気の学習問題を作ることができた。

### 3 協議会

- ・子どもたちの意欲がふり返りから感じられた。
- ・子どもたちの力が確実についてきている。
- ・子どもの思考に沿って学習が進められていた。
  
- ・単元を見通す問題にもなっており、SDGsについての学習、発言が多かった。社会科で解決する問題が何なのかを考えることが大切である。
- ・SDGsを最後の方に出すという流れにもできるのではないかな。
- ・沖縄全体⇒サンゴ礁を見ていくという流れもある。

### 4 学年部長より

サンゴ礁と観光業を関連付けて考えられている児童の姿がふり返りからも見られた。しかし、本時の授業の発言の中に具体的にあらわれていないので、どれだけ児童の背景には自然環境の特色と国民生活との関連を考えられていたのか見取り切れない部分がある。単元目標に立ち返りながら実践していくことが大切である。

<講師の先生より> 平沼小学校 寺岡 徹 先生

サンゴ礁を取り扱うというのは、新鮮で提案性がある材であった。内容とめあてを分けるなど、個人研究に関してもとても意味のあるものであった。視点①のSDGsはESD推進校の中尾小ならでの材の取り上げ方であり、カリマネとしてもとても良いものである。視点②については、SDGsに引っ張られてしまった部分がある。社会科は事実から考えていくことが大切であり、数値・具体が必要である。サンゴ礁から何を考えていくのか、サンゴ礁があることで沖縄がどうなのかということ捉えていくのが大切。授業の組み立て方として、気候、観光、人の取組などトータルで見なければ、より社会科らしい学習になっていくのではないかな。

<学年担当校長先生より> 新治小学校 宮本 雅司 先生

素晴らしい材であった。それゆえに、社会科でのねらいを明確にしていくことの大切さも感じた。社会科はミクロからマクロ・BeforeからAfterで見ていくことが大切。白化からきれいになったという事実に対して、いつ・どうやって・だれがなど5W1Hを意識していくことが大切である。サンゴを植えている人にスポットライトを当てても良いのではないかな。守ろうとしている人の思いを考えることができる。

めあてに関しては、社会科では入れない方がよいのではないかな。もし入れるのなら、ふり返りで行うようにする。